



世界遺産パムツカレ

トルコは七十八の県からなるが、地理的、気候的な特徴から七つの地域に分けられている。

世界遺産のパムツカレはエーゲ海地域に属するが、海岸の中心都市イズミールから車で四時間の内陸にある。パムツカレとは「綿の城」の意味で、丘陵を流れる石灰分の多い温泉水が、長い年月をかけて石灰の白い城を造りあげた。高低差が百近い斜面に、秋芳洞の千枚皿を連想するような石灰棚が重なる。

ここは紀元前に建設された都市ヒエラポリスがあった所で、温泉保養地としても栄えた。パムツカレはヒエラポリスの一部だったが、今はパムツカレが中心で、ヒエラポリス遺跡は付属物同然。ガイドブックにも「パムツカレ(ヒエラポリス)」と表示してある。今回の旅でも石灰棚のパムツカレには行ったが、ヒエラポリス遺跡は近くから見ただけだった。

世界遺産録にも「美しい石灰棚の斜面の上」に広がる都市遺跡ヒエラポリスとパムツカレ」と紹介されてお



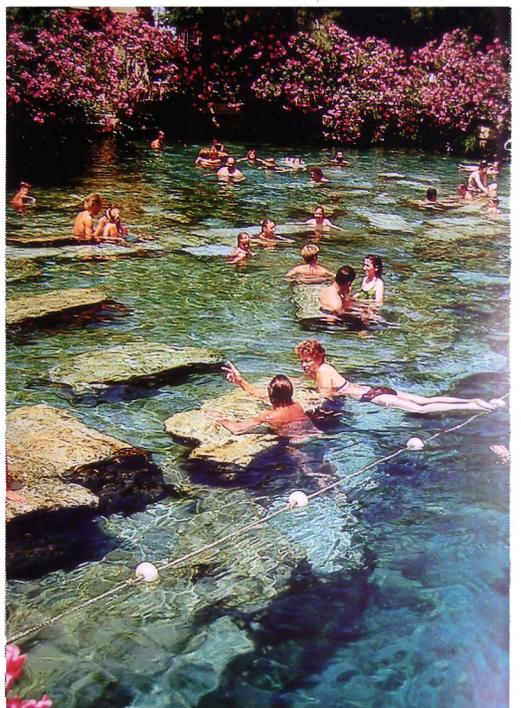
石灰棚の上を今も温泉が流れる

ラポリスとパムツカレ」と紹介されてお

り、二つで一つの世界遺産である。世界遺産は「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」のいずれかで登録される。ここは複合遺産となっており、パムツカレだけを見るのもわからないではないが、世界遺産を見る以上、遺跡部分を軽視すべきではない。複合遺産を象徴するように遺跡の一部の上

藤屋 侃士 (下松市幸ヶ丘)

を温泉が流れ、プールになる所がある。使用料は千六百円で、次に来る



遺跡の上が温泉のプールになっている

の上を泳ぐだいたい味を体験したい。

遺跡部分だけを比較すると、エフェソ遺跡の方がはるかにスケールが大きい。が、ヒエラポリス遺跡はキリスト教徒にとつては特別な意味がある。

キリストの十二使徒の一人、フィリポがこの地で紀元八〇年に殉教しているのだ。台地の中腹にフィリポの墓の上に建てられた教会堂が見える。当時の地図を見ると新約聖書に出てくる「コロサイ」「ラオデキア」「アンテオケ」「ヒラデルヒ

ヤ」はこの近くにある。

しかし、パウロの手紙の中にフィリポの名前が出てこないのはパウロがこの地を去ったあとに来たからなのだろう。パウロがローマで殉教したのは紀元六四年ごろである。

何か二人を結びつけるものはないかと、帰ってから聖書を調べてみると、パウロの「コロサイへの手紙」の中に一カ所だけだが「ヒエラポリス」が出てきた。フィリポが来る前からこの地にはキリスト教共同体があったの

だ。パウロはコロサイへの手紙を獄中で書いたとある。キリスト教への迫害がこの地方でも始まっていたのだらう。フィリポがこの地で紀元八〇年に殺されたこととのつながりを感じる。

ローマ帝国からキリスト教が公認されたのは紀元三一二年だから、それまでの間、厳しい迫害の中で信仰を伝えたのだろう。

世界遺産の地は、殉教の地でもあった。(元山口放送取締役ラジオ局長)